

2022年度事業計画

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

1. 基本方針

2022年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から75年目を迎えます。

新年度も当協会は、大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、永年活動を続けてきた大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館は、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽文化の普及・振興に貢献するとともに、会館施設の一部を一般に賃貸する収益事業を通じて、交響楽団運営等の公益事業の費用に充当していきたいと考えております。

これらの事業推進にあたりましては、長期化する新型コロナウイルス感染症拡大防止策の徹底を行いながら、コロナ禍で縮小を余儀なくされた公演数、公演入場者数、各種会員数、及び会館利用者数等の回復、常態化を目指した努力を続けるとともに、ネット配信など新たに収入を得る方策にもトライし、財政的にも安定した協会運営を目指してまいる計画です。

楽団運営は、2018年4月より第三代音楽監督に尾高忠明氏を迎え、定期演奏会をはじめ様々な自主公演会を通じて、芸術的価値の高い曲目を採り上げ、持ち味であるダイナミックな演奏に加え、緻密なアンサンブル能力を兼ね備えた新たな「大フィル・サウンド」作りを目指すとともに、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等にも努めてまいります。

2. 事業基盤の維持・拡大に向けた2022年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の再構築と拡大を進めてまいります。

(1)自立に向けた収益基盤の再構築

尾高監督の就任以来、主要レパートリーのブラッシュ・アップを目的に、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキー、ドヴォルザークの交響曲を連続して演奏するシリーズを続けてまいりましたが、2022年度はフランス音楽の名曲を集めた「音楽の宝石箱」を開催いたします。自主公演は39公演となる見込みで、文化庁学校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、年間57公演を見込み、合計の年間公演数は、98公演の計画となっております。

| 1. 自主公演（39公演） | | |
|----------------------|---------------|------|
| 公演名 | 会場 | 公演数 |
| 定期演奏会 | フェスティバルホール | 20 |
| 東京定期演奏会 | サントリーホール | 1 |
| 音楽の宝石箱 | ザ・シンフォニーホール | 3 |
| マチネ・シンフォニー Vol.27・28 | ザ・シンフォニーホール | 2 |
| ソフレ・シンフォニー Vol.19・20 | ザ・シンフォニーホール | 2 |
| 親子のためのオーケストラ体験教室 | 大阪フィルハーモニー会館 | 4 |
| 神戸特別演奏会 | 神戸国際会館こくさいホール | 1 |
| ドラゴンクエスト・コンサート | びわ湖ホール | 1 |
| 3大交響曲の夕べ | フェスティバルホール | 1 |
| 京都特別演奏会 | 京都コンサートホール | 1 |
| 第9シンフォニーの夕べ | フェスティバルホール | 2 |
| 新春名曲コンサート | フェスティバルホール | 1 |
| 2. 依頼公演（59公演） | | |
| 企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演 | | 57公演 |
| 大阪クラシック(有料・オーケストラ公演) | | 2公演 |

定期演奏会は演奏技術に磨きをかけ、コアなクラシックファンをはじめ、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の実力をアピールし、音楽的な高みを目指すシリーズとなっています。2022年度も21世紀のオーケストラとして演奏すべき作品をバランス良く取り上げることに留意し、古典から近現代の作品まで邦人作品を含め幅広い演目に挑戦してまいります。その中で弊楽団としましては、尾高監督就任当初より磨いてきた基礎的なアンサンブル能力や表現力を更に発展させ、伝統の「大フィル・サウンド」を更に進化／深化させていきたいと考えております。

また 2020～2021 年度にかけて、新型コロナウイルスの影響で来日不能となった、シャルル・デュトワ、ロバート・トレヴィーノ、ユベール・スダーン、ミシェル・タバシュニクといった優れた指揮者を再招聘する他、ミシェル・ダルベルト(ピアノ)、パトリツィア・コパチンスカヤ(ヴァイオリン)といった魅力的なソリストを起用し、ヴァラエティに富んだ曲目で幅広い観客層に音楽の素晴らしさをお届けできると考えております。

また東京定期演奏会では、大阪フィルの代表的なレパートリーであるブルックナーの交響曲から、「第7番」を取り上げ、進化をつづけている「尾高&大フィル」の実力をしっかりアピールしてまいります。

また、「名曲シリーズ」の一環として開催を続けております「マチネ・シンフォニー」「ソワレ・シンフォニー」「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」につきましては、初めて管弦楽に接する方が「オーケストラって楽しい、面白い」と興味を抱くことのできる作品を提供いたします。尚、2017 年度から取り組んでおりますゲーム音楽シリーズ「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましては、ゴールデンウイークにびわ湖ホールで開催し、クラシックファンのみならず幅広い層にオーケストラ演奏の魅力をアピールし、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしていきたいと考えております。

以上の通り自主演奏会をより充実させることによってファン層の拡大を図るとともに、期中においても依頼公演の受注に努力し収益基盤の再構築を図ってまいります。

会費収入の増収に向けては、2015 年度より新たに設置したパトロネージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーに効果的に活動頂いている他、法人会員についてはコロナ禍の厳しい環境の下で様々なご協力を頂きながら、新規の会員獲得活動を続けてまいります。また、寄付金につきましては、遺贈案件等の捕捉はもちろんのこと、演奏会での寄付金募集チラシの折り込み等を通じた地道な努力とともに再び、クラウドファンディングにもテーマや方法を工夫して取り組んでまいりたいと考えております。

(2)オーケストラの体制整備

2023 年 3 月まで契約期間を延長した 3 代目音楽監督の尾高忠明マエストロには引き続き公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括して頂いております。

楽団員の体制については、2022 年 2 月末現在 63 名のところ、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、ソロ・コンサートマスターの崔文洙氏と、コンサートマスターの須山暢大氏の2名と契約を継続いたします。

(3)大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去 16 回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また 5 万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」ですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、座席を指定した有料公演と無観客による演奏の動画配信に切り替え開催いたしました。今年度も感染状況を見ながら 9 月に在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で開催すべく、大阪クラシック実行委員会において協議・調整を行っております。

「大阪クラシック」の継続開催により、大阪の新しい都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化や、大阪の都市格向上への貢献を目指します。

次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、現在、定期演奏会の開催にあたってフェスティバルホールの 3 階席を学生席として 25 歳以下の学生の方々向けに 1,000 円という極めて安価にて提供しております。2017 年度からは、この3階学生席をより有効に活用するため、小学生等のお子様が親子と一緒に公演を聴くことができる「親子チケット」の発売を開始いたしました。

さらに、2018 年度からは、「学生定期会員」制度を創設し、同会員の学生の皆さまには定期演奏会以外の自主公演の割引制度等を利用していただけるようにいたしました。

また社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生や様々な施設の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動も行っており、2022 年度についても継続実施してまいります。

3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

弊協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600 m²)・市民スタジオ(90 m²1室、40 m²2室)を、今年度も、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を行うことによって地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底するとともに自治体のガイドラインに即した運営を通じて、地域の皆さまに安全で安心してご利用いただける施設として多くの方にご利用いただくよう稼働率の向上にも努めてまいりたいと考えております。

なお、竣工後 30 年が経過する大阪フィルハーモニー会館建物については、公益法人の今後の活動基盤の健全化のため必要に応じて修繕等の検討を続けてまいります。

4. 2022年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

(1)外部企業・団体との連携による公演来場者の増員

これまでも会員企業の福利厚生部門を通じて社内サイト等に社員向け公演情報の掲載を依頼し、来場者の増加を推進してまいりましたが、引き続き2022年度も、他の外部団体も含め、更なる提携対象の拡大、内容の充実を検討してまいります。

また、企業のCSR活動やSDGsへの参画を通じて、社会貢献並びに来場者確保についても積極的に進めてまいります。

(2)新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2021年度も多くの演奏会が中止を余儀なくされました。2022年度につきましても状況を注視すると共に、演奏会場や大阪フィルハーモニー会館での感染予防対策を徹底し、お客さま及び従業員の安全を確保してまいります。

以上

2022年度 収支予算書 内訳表 (正味財産増減計算書 内訳表)
(2022年4月1日 ~ 2023年3月31日)

2022年3月8日

| | 公益目的事業会計 | 収益事業等会計 | 法人会計 | 合計 |
|------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| (単位:円) | | | | |
| I. 一般正味財産増減の部 | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | |
| 受取会費 | 195,200,000 | 0 | 0 | 195,200,000 |
| 正会員受取会費 | 176,000,000 | 0 | 0 | 176,000,000 |
| 賛助会員受取会費 | 19,200,000 | 0 | 0 | 19,200,000 |
| 事業収益 | 509,817,000 | 0 | 0 | 509,817,000 |
| 公演料収益 | 264,900,000 | 0 | 0 | 264,900,000 |
| 広告料収益 | 45,000,000 | 0 | 0 | 45,000,000 |
| 入場料収益 | 179,402,000 | 0 | 0 | 179,402,000 |
| 使用料収益 | 8,000,000 | 0 | 0 | 8,000,000 |
| その他事業収益 | 12,515,000 | 0 | 0 | 12,515,000 |
| 受取補助金等 | 89,050,000 | 0 | 0 | 89,050,000 |
| 公的補助金収入 | 89,050,000 | 0 | 0 | 89,050,000 |
| 寄附金収入 | 26,000,000 | 0 | 15,000,000 | 41,000,000 |
| 一般寄付金収入 | 26,000,000 | 0 | 15,000,000 | 41,000,000 |
| 雑収益 | 1,600,000 | 0 | 400,000 | 2,000,000 |
| 雑収益 | 1,600,000 | 0 | 400,000 | 2,000,000 |
| 経常収益計 | 821,667,000 | 0 | 15,400,000 | 837,067,000 |
| (2) 経常費用 | | | | |
| 事業費 | 910,115,922 | 1,369,773 | 0 | 911,485,695 |
| 役員報酬 | 1,193,400 | | | 1,193,400 |
| 給料手当 | 353,878,110 | 18,990 | | 353,897,100 |
| 賞与 | 0 | 0 | | 0 |
| 法定福利費 | 56,767,001 | 3,000 | | 56,770,001 |
| 旅費交通費 | 52,415,356 | 5,339 | | 52,420,695 |
| 出演費 | 185,261,000 | | | 185,261,000 |
| 音楽費 | 7,515,000 | | | 7,515,000 |
| 文芸費 | 2,375,000 | | | 2,375,000 |
| 諸謝金 | 1,440,000 | | | 1,440,000 |
| 会場費 | 70,110,000 | | | 70,110,000 |
| 楽器運搬費 | 8,701,000 | 0 | | 8,701,000 |
| 外注費 | 5,000,000 | | | 5,000,000 |
| 宣伝費 | 5,634,000 | | | 5,634,000 |
| 印刷製本費 | 16,380,000 | | | 16,380,000 |
| 支払手数料 | 11,066,000 | | | 11,066,000 |
| 消耗品費 | 2,459,080 | 1,290 | | 2,460,370 |
| 修繕費 | 4,051,750 | 87,250 | | 4,139,000 |
| 賃借料 | 2,250,664 | 1,482 | | 2,252,146 |
| 保険料 | 936,741 | 12,041 | | 948,782 |
| 交際費 | 1,134,000 | | | 1,134,000 |
| 通信運搬費 | 3,799,704 | 2,502 | | 3,802,206 |
| 光熱水料費 | 7,517,400 | 4,950 | | 7,522,350 |
| 委託費 | 6,912,402 | 163,390 | | 7,075,792 |
| 減価償却費 | 22,757,087 | 881,783 | | 23,638,870 |
| 雑費 | 19,877,592 | 12,246 | | 19,889,838 |
| 租税公課 | 31,715,084 | 0 | | 31,715,084 |
| 修繕引当金繰入額 | 4,503,500 | 174,500 | | 4,678,000 |
| 賞与引当金繰入額 | 5,105,360 | 520 | | 5,105,880 |
| 退職給付費用 | 19,359,691 | 490 | | 19,360,181 |
| | | | | 0 |
| 管理費 | 0 | 0 | 12,165,631 | 12,165,631 |
| 役員報酬 | | | 795,600 | 795,600 |
| 給料手当 | | | 2,088,900 | 2,088,900 |
| 賞与 | | | 0 | 0 |
| 法定福利費 | | | 329,999 | 329,999 |
| 旅費交通費 | | | 966,305 | 966,305 |
| 通信運搬費 | | | 367,794 | 367,794 |
| 印刷製本費 | | | 0 | 0 |
| 支払手数料 | | | 0 | 0 |
| 消耗品費 | | | 189,630 | 189,630 |
| 修繕費 | | | 161,000 | 161,000 |
| 賃借料 | | | 217,854 | 217,854 |
| 保険料 | | | 22,218 | 22,218 |
| 交際費 | | | 126,000 | 126,000 |
| 支払利息 | | | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 光熱水料費 | | | 727,650 | 727,650 |
| 委託費 | | | 766,208 | 766,208 |
| 減価償却費 | | | 1,627,130 | 1,627,130 |
| 雑費 | | | 1,800,162 | 1,800,162 |
| 租税公課 | | | 594,416 | 594,416 |
| 修繕引当金繰入額 | | | 322,000 | 322,000 |
| 賞与引当金繰入額 | | | 94,120 | 94,120 |
| 退職給付費用 | | | ▲ 31,355 | ▲ 31,355 |
| 経常費用計 | 910,115,922 | 1,369,773 | 12,165,631 | 923,651,326 |
| 当期経常増減額 | ▲ 88,448,922 | ▲ 1,369,773 | 3,234,369 | ▲ 86,584,326 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他会計振替前当期一般正味財産増減 | ▲ 88,448,922 | ▲ 1,369,773 | 3,234,369 | ▲ 86,584,326 |
| 他会計振替額 | | | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | ▲ 88,448,922 | ▲ 1,369,773 | 3,234,369 | ▲ 86,584,326 |
| + 一般正味財産期首残高 | 412,036,244 | 12,820,538 | 102,349,863 | 527,206,645 |
| + 一般正味財産期末残高 | 323,587,322 | 11,450,765 | 105,584,232 | 440,622,319 |
| II. 指定正味財産増減の部 | | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| III. 正味財産期末残高 | 323,587,322 | 11,450,765 | 105,584,232 | 440,622,319 |

2022年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）
（2022年4月1日～2023年3月31日）

2022年3月8日

（単位：円）

| | 2022年度予算 | 2021年度予算 | 増減 |
|----------------|--------------|---------------|--------------|
| I. 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 受取会費 | 195,200,000 | 202,050,000 | ▲ 6,850,000 |
| 正会員受取会費 | 176,000,000 | 182,850,000 | ▲ 6,850,000 |
| 賛助会員受取会費 | 19,200,000 | 19,200,000 | 0 |
| 事業収益 | 509,817,000 | 441,708,000 | 68,109,000 |
| 公債収益 | 264,900,000 | 237,775,000 | 27,125,000 |
| 広告料収益 | 45,000,000 | 45,000,000 | 0 |
| 入場料収益 | 179,402,000 | 123,525,000 | 55,877,000 |
| 使用料収益 | 8,000,000 | 7,000,000 | 1,000,000 |
| その他事業収益 | 12,515,000 | 28,408,000 | ▲ 15,893,000 |
| 受取補助金等 | 89,050,000 | 69,633,000 | 19,417,000 |
| 公的補助金収入 | 89,050,000 | 69,633,000 | 19,417,000 |
| 寄附金収入 | 41,000,000 | 33,800,000 | 7,200,000 |
| 一般寄付金収入 | 41,000,000 | 33,800,000 | 7,200,000 |
| 雑収益 | 2,000,000 | 32,000,000 | ▲ 30,000,000 |
| 雑収益 | 2,000,000 | 32,000,000 | ▲ 30,000,000 |
| 経常収益計 | 837,067,000 | 779,191,000 | 57,876,000 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 911,485,695 | 883,893,383 | 27,592,312 |
| 役員報酬 | 1,193,400 | 1,193,400 | 0 |
| 給料手当 | 353,897,100 | 357,455,900 | △ 3,558,800 |
| 賞与 | 0 | 0 | 0 |
| 法定福利費 | 56,770,001 | 60,820,001 | △ 4,050,000 |
| 旅費交通費 | 52,420,695 | 51,614,841 | 805,854 |
| 出前費 | 185,261,000 | 169,180,830 | 16,080,170 |
| 音楽費 | 7,515,000 | 7,310,981 | 204,019 |
| 文芸費 | 2,375,000 | 2,309,353 | 65,647 |
| 諸謝金 | 1,440,000 | 2,387,000 | △ 947,000 |
| 会場費 | 70,110,000 | 72,485,800 | △ 2,375,800 |
| 楽器運搬費 | 8,701,000 | 8,433,000 | 268,000 |
| 外注費 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 |
| 宣伝費 | 5,634,000 | 5,473,000 | 161,000 |
| 印刷製本費 | 16,380,000 | 19,520,000 | △ 3,140,000 |
| 支払手数料 | 11,066,000 | 10,069,000 | 997,000 |
| 消耗品費 | 2,460,370 | 6,375,000 | △ 3,914,630 |
| 修繕費 | 4,139,000 | 2,735,600 | 1,403,400 |
| 賃借料 | 2,252,146 | 2,223,000 | 29,146 |
| 保険料 | 948,782 | 948,782 | 0 |
| 交際費 | 1,134,000 | 1,134,000 | 0 |
| 通信運搬費 | 3,802,206 | 4,528,800 | △ 726,594 |
| 光熱水費 | 7,522,350 | 6,660,000 | 862,350 |
| 委託費 | 7,075,792 | 7,056,282 | 19,510 |
| 減価償却費 | 23,638,870 | 23,638,870 | 0 |
| 雑費 | 19,889,838 | 17,645,200 | 2,244,638 |
| 租税公課 | 31,715,084 | 25,519,336 | 6,195,748 |
| 修繕引当金繰入額 | 4,678,000 | 4,678,000 | 0 |
| 賞与引当金繰入額 | 5,105,880 | 4,908,500 | 197,380 |
| 退職給付費用 | 19,360,181 | 2,588,907 | 16,771,274 |
| 管理費 | 12,165,631 | 13,569,827 | △ 1,404,196 |
| 役員報酬 | 795,600 | 795,600 | 0 |
| 給料手当 | 2,088,900 | 2,003,100 | 85,800 |
| 賞与 | 0 | 0 | 0 |
| 法定福利費 | 329,999 | 329,999 | 0 |
| 旅費交通費 | 966,305 | 962,159 | 4,146 |
| 通信運搬費 | 367,794 | 503,200 | △ 135,406 |
| 印刷製本費 | 0 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 0 | 0 | 0 |
| 消耗品費 | 189,630 | 675,000 | △ 485,370 |
| 修繕費 | 161,000 | 64,400 | 96,600 |
| 賃借料 | 217,854 | 247,000 | △ 29,146 |
| 保険料 | 22,218 | 22,218 | 0 |
| 交際費 | 126,000 | 126,000 | 0 |
| 支払利息 | 1,000,000 | 100,000 | 900,000 |
| 光熱水費 | 727,650 | 740,000 | △ 12,350 |
| 委託費 | 766,208 | 1,685,718 | △ 919,510 |
| 減価償却費 | 1,627,130 | 1,627,130 | 0 |
| 雑費 | 1,800,162 | 1,832,800 | △ 32,638 |
| 租税公課 | 594,416 | 1,631,064 | △ 1,036,648 |
| 修繕引当金繰入額 | 322,000 | 322,000 | 0 |
| 賞与引当金繰入額 | 94,120 | 91,500 | 2,620 |
| 退職給付費用 | ▲ 31,355 | ▲ 189,061 | 157,706 |
| 経常費用計 | 923,651,325 | 897,463,210 | 26,188,116 |
| 当期経常増減額 | ▲ 86,584,326 | ▲ 118,272,210 | 31,687,884 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | ▲ 86,584,326 | ▲ 118,272,210 | 31,687,884 |
| 一般正味財産期首残高 | 527,206,645 | 540,737,341 | ▲ 13,530,696 |
| 一般正味財産期末残高 | 440,622,319 | 422,465,131 | 18,157,188 |
| II. 指定正味財産増減の部 | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 |
| III. 正味財産期末残高 | 440,622,319 | 422,465,131 | 18,157,188 |

（注1）一般正味財産期首残高に関して、2022年度予算は2021年度決算見込み値を、2021年度予算は2020年度決算値を使用

（注2）短期借入限度枠は300百万円とする